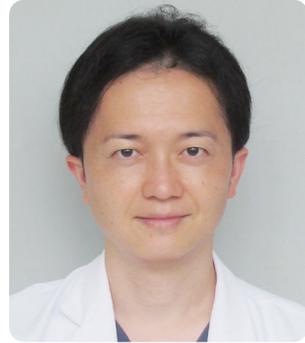




いぶき 第86号
 発行者 吉野公博
 編集 患者サービス向上委員会
 香川県丸亀市城東町3丁目3番1号
 TEL (0877)23-3111
 FAX (0877)24-1147
 季刊誌 年4回発行
<https://www.kagawah.johas.go.jp>

眼でお困りのことはありませんか？

眼科部長 土居 真一郎



ここでは、当科で扱っている疾患のなかでも皆様に馴染みのある疾患を2つ、ご紹介させていただきます。

【白内障】

人が外の世界から受けとる情報の80%は視覚、すなわち眼から入っているといわれています。私たちが日常生活を送るうえで、物が見えるということもとても重要なことです。特に、インターネットが普及し情報化が進んだ現代社会においては、眼の重要性はますます高まっています。また、視力が悪くなると脳へ伝わる刺激が少なくなり、脳の認知機能が衰えて認知症を発症しやすくなると報告されています。よい視力を保つことは、すなわち、元気で健康に過ごせる年齢を延ばすことにつながります。眼科は、そのような生活に重要なみなさまの眼の見えるを守る診療科です。こ

白内障は、主に加齢を原因として生じる水晶体(眼の中のレンズ)の混濁により、視力が低下する、視界が全体的にかすむ、光をまぶしく感じるなどの症状を生じてくる疾患です。この水晶体の混濁は加齢とともに必ず生じる変化であるためその罹患率は高く、60歳代で66%、83%、80歳以上では100%の方が白内障に罹患します。治療は、点眼薬で進行を抑制する場合もありますが、完全に進行をとめることは出来ないため、基本的には手術が必要です。皆様周囲にも、白内障で手術を受けたという方がいらっしゃるのではないのでしょうか？病状の進行具合にも程度があり、非常に進行してほぼ光が通らないほどに混濁が強い場合や、外傷によ

り水晶体を支える組織が一部断裂している場合などのいわゆる難症例についても、当院では対応可能です。そのような難症例の方については、近隣の医療施設から当院にご紹介をいただき治療にあたっています。

【緑内障】

緑内障は、名前は白内障とよく似ていますが、まったく別の疾患です。さまざまな原因により視神経が障害されていく疾患で、主な症状は、視界の見える範囲(視野)が徐々に狭くなっていく視野狭窄です。じつは緑内障は中高年の失明原因の第1位で、40歳以上の20人に1人、70歳以上の10人に1人が緑内障を患っています。しかし、実際には緑内障を患っている人の9割が、自分が緑内障であるということに気がついていないと言われています。その理由は、緑内障の初期は自覚症状がなにもないためです。自覚症状があらわれ眼科を受診されたころには、緑内障が末期まで進行していることがまれではありません。治療は点眼薬やレー

香川労災病院の理念

働く人々や地域の人々に
 安全で安心のよりよい
 医療と看護を提供します

ザー治療、手術により眼圧を下げることで、眼圧を下げるほど緑内障の進行をおさえることができます。しかし、すでに失われた視野を回復させる方法は現在のところありません。そのため、緑内障は早期発見が非常に大切です。当院では、緑内障と診断された患者様に対して、点眼薬治療に加えてレーザー治療や手術治療にも対応しております。また、今回ご紹介した疾患以外にも、当院では網膜剥離、糖尿病網膜症、黄斑上膜、黄斑円孔などの疾患に対する硝子体手術にも対応しております。最近眼の不調な方や、緑内障がないかチェックを受けたい方などおられましたら、一度眼科を受診してみてください。

卒後臨床研修評価の認定について

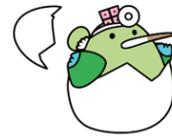
卒後臨床研修部門責任者 平下 浩司

このたび当院は、初期臨床研修医の教育・育成等に関して適切な体制を有しており、卒後臨床研修評価機構の定める要件を達成した病院として認定されました。



当院にお越しの患者様にとって、初期臨床研修医という言葉はあまり馴染みのないものかもしれません。初期臨床研修医(以下、「研修医」と簡略化して記載します。)とは、医師免許を取得した1年目・2年目の医師を指します。医学生が医師のタマゴだとしたら、研修医はタマゴから孵化したての医師と言えるかもしれません。研修医はこの状態から、様々な患者様に出会い、多数の症例を経験して行く中で、高度な技能を持った専門医として成長し、患者様の治療にも大いに貢献できるようになっていきます。

ことが出来る病院(「基幹型臨床研修病院」といいます)となっており、研修医が外来・病棟で診療を行っております。経験の浅い医師が診療にあたる、ということによって不安に思われるかもしれませんが、研修医は決して一人ではなく、必ず高度な技術を持つ指導医の指導の下診療にあたりますので、ご安心ください。



研修医への予防注射の指導風景

かかりつけ医と選定療養費の改定について 紹介状無しを受診時における定額負担

医事課長 福岡 聖司

皆さんは「かかりつけ医」という言葉をご存知でしょうか。「かかりつけ医」とは、普段から気軽に健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医師・医療機関を紹介してくれる、患者さんにとって身近で頼りになる医師のことです。

「かかりつけ医」を持つことで、日頃の患者さんの健康状態を知ってもらえ、症状に応じた専門家の紹介がスムーズになり、更に病気の予防や早期発見・早期治療にもつながります。「かかりつけ医」は子どもの健康診断や健康相談を行う学校医、働く人達の健康管理をする地域・職場の産業医、在宅療養が必要な方のための訪問診療医など皆さんの身近にいます。

身近にいて頼りになる「かかりつけ医」を持つことは、ご自身の健康を維持・増進するためにも大切なことと言えます。

当院は、地域医療支援病院として、丸亀市医師会を始め「かかりつけ医」が所属する近隣の医師会との連携し、強化に努めています。「かかりつけ医」からの紹介を受けて高度専門的な

医療(手術や精密検査等)を行い、患者さんの病状が安定した後は、「かかりつけ医」に逆紹介する、等患者さんが住み慣れた地域で適切な医療が受けられるよう、当院に求められる役割を果たしていきたいと考えています。

一方で国の制度では紹介状無しで大病院を受診する場合、患者さんは医療費とは別に定額負担が掛かることとなっております。

当院も以前より紹介状が無い場合は、定額負担をいただいております。初診時だけでなく、再診時(症状が安定

し、当院から「かかりつけ医」に紹介した後に、紹介状無しで当院を受診された場合)にも定額負担となっております。

10月よりこの金額が令和4年度の診療報酬改定に伴い、初診時7,700円、再診時3,300円となっておりますので、是非皆様のご理解の程よろしくお願いいたします。

この変更は地域の拠点となる病院、所謂「大病院」とかかりつけ医機能を持つ「診療所等」との連携強化を推進するのが目的となっております。当院も「かかりつけ医」の先生方との連携強化、地域医療への貢献に向けた取組を更に進めていくこととしております。今後とも何卒よろしくお願いたします。

はじめよう！糖尿病予防

糖尿病看護特定認定看護師 西原 環

11月14日の「世界糖尿病デー」をご存じですか？これは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために制定されており、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」を用いて世界各地で啓発活動が行われています。

この時期、香川県では琴弾公園や丸亀城、サンポート高松などがブルーにライトアップされます。

糖尿病は自覚症状が出にくい疾患です。定期的に健康診断を受け、早期発見・早期治療につなげましょう。



連載 4

丸亀城と城下町

元禄年間の丸亀城下町

香川大学名誉教授 田中健一

丸亀京極家の初代高和が、丸亀城へ初めて入ったのは万治元年(一六五八)のことです。それからほぼ四〇年後の元禄一〇年(一六九七)に丸亀の町会所により製作された絵図が丸亀市立資料館に所蔵されています。この絵図には丸亀城下町全域にわたり各家並の間口・奥行きと屋号・名前が記され、当時の城下町の姿を詳細に知ることが出来ます。今回、同資料館より写真を提供していただきましたので、理解しやすいよう写真【図6】を作成しました。なお、こ

の絵図は、同資料館の常設展示でも見ることが出来ます。また、『新編丸亀市史 2近世編』に詳細な写真と、各町ごとの家並表が掲載されています。

士の屋敷地であったことと大きく異なります。浜町以下の武家地は、船入・船蔵・加子(かこ)長屋など藩の御用船に関わる施設と船手の屋敷が多いのが特徴です。寺社地も、現在の南条町、塩飽・富屋両町の外堀側、瓦町・北平山町・葭町と偏在しています。南条町が金毘羅街道の城下への入り口

【図6】では、城下町を構成する大きな要素である武家地・町人地・寺社地その他、外堀・河川・海、畑地を色分けで示しています。まず武家地は現在の風袋町の全域と、浜町・本町・南条町の一部に偏在します。風袋町の武家地は足軽など下級武士の屋敷地となっており、城内が上・中級の武

に位置することから、城下町の西側の防衛線として寺院群が配置されたのでしよう。同じく瓦町以下の寺院群も御供所・北平山・西平山三町の海側からの敵の侵入に備えたものと推定されます。

街路も防衛の一翼を担っていました。図の南条町から塩飽町にかけて、T字型の交差点を二つ組み合わせた「当て回り」が見られます。侵入した敵が城の大手に向かうときに進む方向を迷わせるための工夫です。山町付近にも浜から上がる道に「当て回り」の交差点があります。東隣の御供所町にはT字型の交差点が連続して設けられています。武家屋敷が集中する風袋町には「当て回り」の交差点が多数存在します。

田中健二氏プロフィール



田中健二さんは、香川大学名誉教授で、専門は日本中近世史です。多年にわたって香川県文化財保護審議会の委員を務められ、教育文化功労者として令和元年に県知事表彰をうけていらっしやいます。

図6



瓦町から東汐入川にかけての一带は畑地となっています。なぜ、ここは宅地化しなかったのでしょうか。



写真1

砂堆上を通る道との高低差を知ることができます。

城下町の東側の外堀と東汐入川は昭和四〇年代後半から五〇年代にかけて埋め立てられました。【写真2】



写真2



写真3

は外堀跡で、土器川の蓬葉橋を東へ渡る直前の左側です。【写真3】は東汐入川跡に作られた東汐入川緑道公園です。この道を北へ曲

がって変則交差点を左へ入ったところに真言宗眞光寺があります。門前から御供所町の通りが始まります。一年にわたり、丸亀城下町のお話をさせていたいただきました。小稿でご関心を持たれた方はぜひとも古町の町歩きを試みてくださいます。色んな発見があることと思

部署紹介「東6病棟」

東6病棟師長 平井 有美

東6病棟は、呼吸器内科、消化器内科の病棟で、主に肺がん、胃がん、大腸がん、膵臓がんなどに対する検査や治療(化学療法、放射線療法など)、胃・大腸ポリープ、胆石や胆管炎などに対する内視鏡治療、肺炎や膵炎などに対する薬物治療を行っ

ています。「傾聴(相手の気持ちに寄り添いながら話にじっくり耳を傾けて聴く、気持ちを取り戻す)」を大切に、診断から治療、終末期まで患者様やご家族がその人らしい生活や意思決定ができるよう支援しています。社会的・経済的問題に

新任医師紹介



外科医師 戸嶋 圭

10月より異動となりました。出身は高松市で、平成29年に岡山大学を卒業後、岡山医療センター、香川県立中央病院、屋島総合病院、岡山大学病院と、香川・岡山の病院で勤務してまいりました。専門は乳腺外科です。2児の母でもあり、慌ただしい日々を過ごしておりますが、診療においては患者様のお話をしっかりと受け止めて丁寧な説明をするよう心がけております。地域の乳がん診療に貢献でき



産婦人科医師 今谷 稜子

令和4年10月より赴任いたしました産婦人科後期研修医の今谷稜子と申します。岡山出身で、香川大学医学部を卒業後、岡山・福山の病院で勤務してまいりました。香川のうどんが大好きなので、また美味しいというところが食べられることを嬉しく思います。体を動かすことが趣味で、小学生から続けている硬式テニスを今も頑張っています。一生懸命診療してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

るよう、精一杯努めてまいります。よろしくお願いいたします。



四季の植物 アゲラタム キク科・カッコウアザミ属

西4病棟看護師・高橋希巳江 原産地は熱帯アメリカです。開花は5~11月、管状花と呼ばれる糸の様な細い花びらが特徴で、ブルー系の可憐な花を次々と咲かせます。花言葉は【信頼・安泰】など、5月10日、9月14日、10月24・29日の誕生花です。

編集だより 患者サービス向上委員 福原 知華

いよいよ秋空が気持ちよく澄みわたたり、秋の風が心地よく感じられる季節となってきました。秋といえば、読書の秋・スポーツの秋・芸術の秋・食欲の秋と様々にありますが皆さんは何を思い浮かべますか。終わりの見えない長いコロナ禍生活ですが、感染対策を徹底しながら秋を楽しんでいきましよう。 広報誌「いぶき」へのご意見、ご感想等がありましたら、是非お寄せください。多数お待ちしております。